

WEEKLY SIGNAL

平成30年5月25日(金) 1425号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	5/28(月)	5/29(火)	5/30(水)	5/31(木)	6/1(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,000	トシ	トシ	トシ	トシ
財政他	+ 4,000	△ 1,000	△ 3,000	+ 1,000	△ 34,000
資金需給	△ 3,300	△ 1,000	△ 3,000	+ 1,000	△ 34,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(40年) 交付税特会借入・償還		国債発行(2年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,000 CP等買入 △ 500 国債補完供給 + 300				
オペスタート	国債買入 + 10,700 共通担保(全店) + 1,600 社債等買入 + 1,000				
(日本)	企業向けサービス価格指数 前年比(4月、日銀)	有効求人倍率(4月、総務省) 完全失業率(4月、厚労省)	商業動態統計(4月、経産省) 消費者動向調査(5月、内閣府)	セントルイス連銀総裁が都内で講演 鉱工業生産(4月、経産省)	法人企業統計調査(18年1-3月期、財務省) 債券市場サーベイ(5月調査、日銀)
(海外)	米 祝日のため株式・債券市場休場 英 祝日のため株式・債券市場休場	米 消費者信頼感指数(5月) 欧 ユーロ圏マネーサプライ(4月)	米 地区連銀経済報告(ベージュブック) 米 ADP雇用統計(5月) 米 卸売在庫(4月) 米 GDP(1-3改定値) 欧 ユーロ圏景況感指数(5月)	G7財務相・開発相・ 中央銀行総裁会議 (カナダ ウィスラー、6/2迄) 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 FRBブレイナード理事、講演 欧 ECBコンスタンシオ副総裁が 任期満了 米 個人所得・支出(4月) 米 週間新規失業保険申請件数(5/26終了週) 欧 ユーロ圏失業率(4月)	米 雇用統計(5月) 米 建設支出(4月) 米 ISM製造業景況指数(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、383兆1,900億円から始まった。その後は短国・国債買入れ等を主に増加したが、23日には20年債の発行を主な要因に減少し382兆7,300億円まで越週となった。
無担保コールON物金利は、積期序盤であることなどを背景に調達を慎重に進める参加者が多く、△0.08%台の出合も多く見られる軟調な展開が続いた。週初の加重平均金利は△0.064%であったが、その後は徐々に低下し、週末は△0.071%となった。
ターム物においてもON物同様に資金調達サイドが慎重であったため、軟調な地合いであった。ショートタームを中心に△0.05~△0.06%の出合が見られた。

来週は、国内では、有効求人倍率、完全失業率(29日)、海外では、ベージュブック(30日)、米雇用統計(1日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.160 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約7,000億円で、週間償還総額の約2,700億円を上回った。5・10日発行での案件増加と、その他金融や不動産業態からまとまった発行があり、発行超となった。週末の発行市場残高は、16兆4,700億円程度になった模様。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが引き続き旺盛で、概ねマイナス0%近辺の出合いであった。
来週の償還総額は、月末日の大量償還(約7,400億円)を含み約1兆700億円となっている。月末日スタートの大量発行が予定されており、発行超となる見通し。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強くなり、変わらずマイナス0%近辺の出合いであろう。28日にCP等買入オペ(2,000億円)がオフアされる予定。

<TDB>

25日に行われた国庫短期証券3M第760回債の入札は、最高落札レート△0.1383%(前回債△0.1323)、平均落札レート△0.1431%(同△0.1391%)と前回債からマイナス幅はやや拡大した。セカンダリー市場は目立った動きは見られず、新発3Mはほぼ入札と同水準の△0.144%、1Yは△0.145%の出合が見られた。
来週は6月1日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初から週央にかけて△0.11%~△0.12%で推移した。25日受渡しは△0.14%近辺から出合いが付き始め、△0.17%台までレート低下。週末は短国3Mの発行日であったが、レート上昇は限定的で△0.14%~△0.16%が出合いの中心となった。SC取引では5年135回債のbidが多く、週初△0.10%台前半~半ば。25日の国債買入れオペ後は△0.30%台半ば~後半の出合いが見られた。10年350回債も週末にかけてレート低下。△0.20%近辺で取引された。他2年386・387・388回債、5年133・134・135回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164回債、30年57・58回債、40年9・10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。